

令和 4 年 2 月 28 日

令和 3 年度 大阪府立羽曳野支援学校 第 3 回 学校運営協議会

進行 福積

記録 森本

日 時 令和 4 年 2 月 28 日 (月) 15 時～16 時 30 分

場 所 大阪府立羽曳野支援学校 図書室

参加者 中條委員 井上委員 亀田委員 (Web 参加) 平賀委員 (Web 参加)

大門校長 福積教頭 森本教頭 川野事務長 多田首席 和田首席

岡田首席 浦教諭

1 校長挨拶

本日はありがとうございます。新型コロナウイルス感染拡大が収まらない中、府立学校としては、児童生徒の学習保障も考え臨時休業を学校全体でなく、学部閉鎖や学年閉鎖をとる等して対応しております。本校におきましても、感染防止対策はもちろんのこと、分教室間の教員の移動をできるだけ抑える対策もしています。

今年度を振り返ると、学校の広報に力を入れるという観点から学校ホームページの充実を図ってきました。セミナー等のお知らせだけでなく、校長ブログを 115 回あげました。9 月末から今日に至るまで、ホームページの閲覧回数を調べますと、4219 回あり 1 日に換算しますと 27.9 回になります。今後も本校の教育について知ってもらう機会を増やしていきたいと思えます。本日も貴重なご意見をいただければ幸いです。どうぞよろしくお願いたします。

2 協議

① 学校自己診断アンケートの報告 (多田首席)

- ・児童生徒からの高い評価として「学校に行くのが楽しい」「担任の先生以外にも気軽に相談することができる先生がいる」等があげられる。新型コロナウイルス感染拡大で、物理的な距離が制約される中、精神的なつながりを大切にすることが要因の一つであるとする。低い評価としては「これからの夢や職業、進路について先生と話しあったことがある」という項目である。これについては今後の課題として具体的なアプローチを考えたい。

- ・保護者からの回答では「子どもは学校に行くのが楽しいと言っている。」という項目は昨年度より評価が低下している。一方、児童生徒は上昇していることを考えると、新型コロナウイルス感染拡大によって、PTAの参加が制約されていることも要因であると思う。
- ・医療関係者からの回答では、8項目中7項目が昨年度よりも高い評価を頂き感謝している。自由記述については、真摯に向き合い検討し改善していきたい。
- ・教職員からの回答では「地震・火災などの防災教育や安全教育を行い、災害時の学校の対応について保護者へ説明している。」という項目が、昨年度78%から今年度は87%に上昇することができた。今年度からハザードマップや病棟避難経路図などの資料を使って保護者に説明したことが要因である。
- ・全体の評価としては急激な変化はないが、積み重ねが大切であると改めて思った。今後も協力していく姿勢を大切にして教育にあたっていきたい。

(平賀委員)

全体的に高い評価であると思う。低い評価として「これからの夢や職業、進路について先生と話しあったことがある」という項目があるが、キャリア教育の上から大切であるとはいえ、全く気にしなくてよいと思う。なぜなら入院中の児童生徒は不安が多い中なので、心理面が大切であり、敢えてその内容に触れさせない時が必要であると思う。医療関係者からの自由記述では厳しめの意見があるが、反面期待しているという気持ちの表れなので前向きに取り組んでいくことを期待する。

(亀田委員)

「これからの夢や職業、進路について先生と話しあったことがある」という項目が低い評価であるが、気にする必要はないと考える。遠い未来よりも近い未来を話すことが大事な時もあり、そこは見極めて、プロとして児童生徒に話していくことを期待する。病気について、保護者がどういう認識で、また退院後にどうしたいか等を共通認識していくことが大事であると考えます。

(井上委員)

新型コロナウイルス感染拡大によって様々大変であるが、羽曳野支援学校は児童生徒や保護者の気持ちに寄り添った取り組みをしている。今後も相談しやすい場所と時間を大切にしながら、またオンラインも活用する等して、コミュニケーションを図っていくことを期待している。

(中條委員)

施設の責任者として、「これからの夢や職業、進路について先生と話しあったことがある」という項目は関心のあるところである。こういった話し合いは、学校だけでなく家族をはじめとする多くの大人が話す機会を設けていくことが大切である。いじめについては数字上低くても、保護者や看護師等の様々なところから情報を集め

ていくことが大切であり、それが早期解決につながると考える。

- ② 令和3年度 学校経営計画及び学校評価について
令和4年度 学校経営計画について (学校長)

(大門校長)

令和3年度学校経営計画については、前校長から引き継いだ上で少し修正し計画を立てて実施した。また教頭、首席も含めて検討しながら、今年度は学校経営に取り組んだ。大きな柱として「学力向上と自立・自己実現の取組み」「キャリア教育の推進」「継続支援及び地域連携体制の充実」を掲げて取り組んだ。自己評価の欄については、それぞれの項目を数値化した上で○や△で評価し、今後の課題を明確化した。

(亀田委員)

○△で評価し、評価基準も明確なことはよいと思う。内容についても、新型コロナウイルス感染拡大で大変な状況の中で、様々取り組んでいることは非常に素晴らしいと思う。

(平賀委員)

入院中の児童生徒はいろいろと制約があるが、羽曳野支援学校は、その中で集団的な要素や人との関わりを大切にされている。学校に通うことが当たり前でなくなった現在、羽曳野支援学校で今まで取り組んできたことは、多くの学校に活かされていく大切なことである。

(井上委員)

いろいろなアイデアを出して実践をしていることは素晴らしいと思う。特に大阪府立農芸高校と連携しながらの「うさぎプロジェクト」は、児童生徒の心の安定からもよい取り組みであると思う。地域の学校とオンラインも含めて連携をとっていることも、児童生徒のアイデンティティーからも大切な取り組みである。

3 連絡報告事項

(1) 令和3年度羽曳野支援学校の活動について (浦教諭)

○ 初任者からの報告

- ・自己紹介
- ・羽曳野支援学校に赴任してから、入院中の児童生徒が安心して学習できるように、どういう授業を組み立てればよいかを考えて取り組んできた。
- ・研究授業の紹介
- ・生徒の実態と課題を明確にして、バスケットボールの要素を含んだ体づくり運

動を取り入れた。

- ・成功したことや失敗したことを明確にしてから、「入院中の児童生徒理解を深める。」「体育の専門性を高める。」を柱にして教師としての力をつけたい。
- ・今後も児童生徒の気持ちに寄り添った授業を心がけていきたい。

(平賀委員)

生徒が楽しく授業を受けている様子が印象的でよかった。赴任される前の経験も生かしながら、生徒のために頑張っている姿も印象的であった。

(亀田委員)

授業の展開を工夫されているところがよかったと思う。生徒に向き合って授業しようとする気持ちが伝わってきて、新鮮な気持ちになった。今後のますますの活躍を期待している。

(井上委員)

1年目のフレッシュな気持ちが伝わってきた。生徒の実態も丁寧に把握され、またそれに合わせた授業も展開できている。今後も活躍を期待している。

(中條委員)

生徒と一緒に授業を組み立てている姿勢が印象的であった。一生懸命な気持ちが生徒にも伝わり、それが生徒の様子からもわかった。今後も児童生徒と一緒に取り組む気持ちを大切にして頑張ってもらいたい。

4 閉会のあいさつ (学校長)

貴重なご意見や励ましのお言葉ありがとうございました。今年度も学校運営が円滑に進められましたことは、学校運営協議会の委員の皆様のおかげであると心から感謝しています。新型コロナウイルス感染拡大が終息しない状況にあつて、感染防止に更に努めながら、今後もオンラインを活用する等して、様々工夫して教育に取り組んでいきたいと思ひます。1年間ありがとうございました。そして来年度もどうぞよろしくお願ひいたします。